

学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成29年度

県立学校評価委員会

学校名	埼玉県立特別支援学校塙保己一学園	Cグループ
項目	調査の観点	取組状況に関する所見
目指す学校像	目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。	全県を学区としたセンター的機能を期待される状況を踏まえ、目指す方向が明確に示されている学校像である。学校設置の趣旨や幼児児童生徒・保護者・県民から学校に寄せられる期待に十分応えるものとなっている。
重点目標	学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。	課題解決のための四つの目標が設定されている。長らく同様の目標が続いており、抽象的で分かりにくい面もあるため、目指す学校像の内容と関連させながら、学校内外の環境分析などを踏まえて更に検討・整理し、教育活動の指針となる具体的な目標にしていただきたい。
重点目標達成への取組	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。	重点目標を踏まえて、分掌・学部・委員会等で取組が進められている。評価項目が、年度達成目標としては重点化が不十分なので、明確かつ重点化された具体的な目標となるように工夫するとともに、学校全体の目標を踏まえ、分掌・学部等で検討される方策等を学校全体のシートへフィードバックして相互の連携を図るなど、学校自己評価の運営体制について工夫ができると更に良い。
	方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。	方策を策定するに当たり、学部・分掌などで共通理解を図ろうと努めている。方策が日常的に取り組むものとなっている面があるので、当該年度を通じて重点的に進める取組という視点で評価項目・方策を設定するとともに、取組指標と成果指標をうまく組み合わせることで教職員間でその達成イメージを共有できるような分かりやすい指標を設定することが望まれる。
	校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。	対話などを通して教職員一人一人の能力を生かし、組織力を高めようとしている校長の意欲が感じられる。校長が状況に即して的確にリーダーシップを発揮し、学校の将来や課題解決の方向を示して、その浸透を丁寧に行くとともに積極的に外部との連携なども進めている。目標の達成に向けて更に組織的に取り組むことが期待される。
	学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。	アンケートや学校関係者評価などを基に、取組を検証するための情報収集に努めている。学校自己評価システムを有効に活用し、前年度の課題を次年度の目標・方策に具体的に生かせるように、更にPDCAサイクルを回してスパイラルアップを進めるとともに、日々実践している取組を更に的確に発信していただきたい。
特記事項		